

## 山頂の水不足

一月の中ごろだったと思うが、富士山頂の測候所が水不足に悩んでいるという話を聞いた。積雪を融かして生活用水に使っているので、秋口からの降りが少なく冬場の水不足となったという。

このところ本州南岸をあい次いで通った低気圧で積雪はやや回復したがまだ少なく、天水を使う稜線上の山小屋でも困っているとの話である。当然のことながら周辺の山々を水源とする下界の首都圏、とくに神奈川県などで深刻な渇水となっている。

山頂も下界も水不足となったルーツはと遡れば、あの時と思うのが昨年九月の台風十二号の襲来だった。戦後最大級の台風が関東を直撃との予想で身構えたが、関東の南東部で大雨となっただけで、神奈川県の水ガメや利根川水系の水源まで十分には届かなかった。幸いにも東海上を足早やに抜けてくれたが、自然とは皮肉なもので、この直撃せずが結果的には現在の首都圏の水不足を決定的とした。

台風は被害と豊かな雨をもたらす両刃の剣。標準的な台風でも一日で降る雨が二百億トンほどになり、日本全国の二年間で使う上水道の量に匹敵する真水を運ぶ超特大のスーパータンカーとなる。水不足の地方にほんの数㎤が降れば一気解消となるはずだった。

昨年は梅雨の時期こそ順調に降ったが、その後の八月は猛暑と日照りとなり、一年で最も雨が多い頼みの秋雨と台風の季節の千載一隅のチャンスだった台風十二号にも見放され、不発に終わって黄信号となった。冬のカラカラ天氣が追い討ちをかけて、この半年間で平年の半分くらいしか雨量がない首都圏の水ガメは深刻な赤信号が灯ってしまった。

富士山頂での積雪は春の低気圧による雨が雪となって四月から五月始めが最も深い。秀峰富士を眺めて雪化粧が濃くなつて裾野まで厚化粧となれば朗報、薄化粧のままでは水不足が梅雨の前まで続く兆しとなり節

水あるのみとなる。

（村松 照男）